

# COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

## 大幸薬品

4574 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 3 月 15 日 (木)

執筆：客員アナリスト

**角田秀夫**

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

## ■ 業績動向

### 2018 年 3 月期第 3 四半期は売上高、営業利益ともに増加。 インフルエンザ流行拡大で足元好調。増配発表 (+10 円)

大幸薬品 <4574> は、「正露丸」「セイロガン糖衣 A」を中心とする医薬品事業と、ウイルス除去・除菌・消臭製品「クレベリン」シリーズを中心とした感染管理事業を展開している。

#### ● 2018 年 3 月期第 3 四半期の業績概要

2018 年 3 月期第 3 四半期（2017 年 4 月 - 12 月）は、売上高が 6,713 百万円（前年同期比 10.8% 増）、営業利益が 1,882 百万円（同 7.0% 増）、経常利益が 1,703 百万円（同 4.1% 増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が 1,153 百万円（同 7.8% 減）となった。

売上高に関しては、医薬品事業・感染管理事業ともに好調に推移している。国内医薬品事業の売上高は 3,051 百万円（前年同期比 11.5% 増）。新製品「正露丸クイック C」の販売等により、国内止瀉薬市場における同社シェアは 47.8%（前年同期の 47.2% から 0.6% ポイント上昇）と向上した。海外医薬品事業の売上高は 820 百万円（同 21.3% 増）。中国市場向けの出荷増加により増収となった。

感染管理事業の売上高は、2,824 百万円（同 7.3% 増）。一般用では「クレベリン×ベアブリック ディズニーキャラクターデザイン」の出荷が増収に寄与し、業務用ではデンソー <6902> と共同開発した「クレベリンカートリッジ（車両用）」も好調に推移した。なお、この冬インフルエンザの流行が始まったのは 12 月中旬以降からであったため、第 3 四半期業績への影響は限定的で、第 4 四半期業績に反映されることが期待される。

売上総利益は増収に伴い増加（前年同期比 13.1% 増）。一方で、販管費は新製品「正露丸クイック C」の広告宣伝費及び販売促進費が増えたため、前年同期比で 17.1% 増となったものの増収等により吸収され、営業利益及び経常利益は堅調に増加した。同社の営業利益率 28.0%、経常利益率 25.4% は特筆すべき高水準である。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益が前年同期比でマイナスとなったのは、前期に新工場関連の補助金収入 100 百万円の計上があったことによる。

## 業績動向

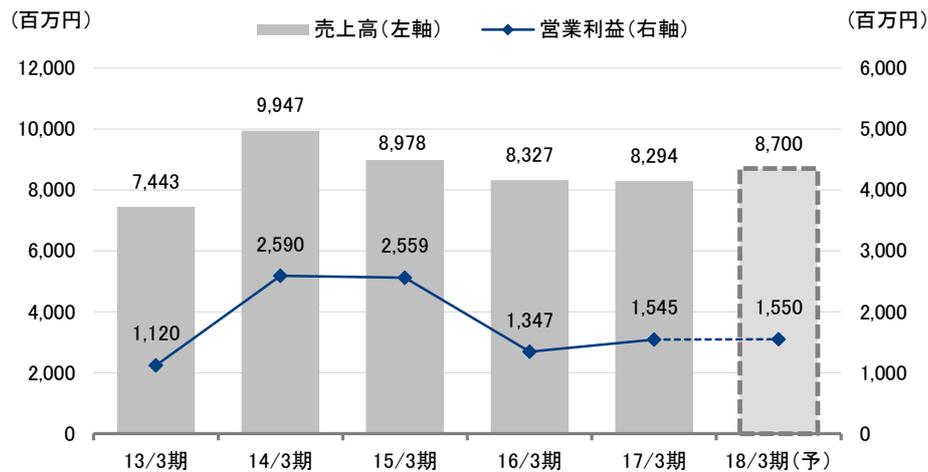
## 2018年3月期第3四半期 連結サマリー

(単位：百万円)

	17/3期3Q		18/3期3Q		前年同期比	変化要因
	金額	売上比	金額	売上比		
売上高	6,058	100.0%	6,713	100.0%	10.8%	
内) 国内医薬品事業	2,737	-	3,051	-	11.5%	国内医薬品は、新製品「正露丸クイックC」等でシェア向上(0.6P向上)。
内) 海外医薬品事業	676	-	820	-	21.3%	海外医薬品は中国市場向けが出荷増加し増収。
内) 感染管理事業	2,633	-	2,824	-	7.3%	感染管理はクレベリン×ペアプリックの出荷が寄与。デンソー向けの車載用クレベリンカートリッジも好調。
売上総利益	4,396	72.6%	4,970	74.0%	13.1%	増収の影響で増加
販管費	2,636	43.5%	3,087	46.0%	17.1%	主に「正露丸クイックC」の広告宣伝費、販売促進費増加
営業利益	1,759	29.0%	1,882	28.0%	7.0%	
経常利益	1,636	27.0%	1,703	25.4%	4.1%	為替の円高影響で46百万円減
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,251	20.7%	1,153	17.2%	-7.8%	前期に新工場関連の補助金収入100百万円計上

出所：会社資料よりフィスコ作成

## 通期業績の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

## ■ 今後の見通し

### インフルエンザ流行拡大及び中国向け出荷増加等により 業績上振れの可能性大

#### ● 2018年3月期の業績見通し

2018年3月期通期の業績予想は売上高で前期比4.9%増の8,700百万円、営業利益で同0.4%増の1,550百万円、経常利益で同7.6%減の1,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同14.2%減の900百万円と期初の予想を据え置いている。

海外医薬品事業は、中国市場向けにおいて、期初の原料仕入先の製造トラブルが早期に解消したことから、業績予想に対し売上高の上振れが期待できる。感染管理事業においては、インフルエンザの流行が例年以上に拡大したために、クレベリン製品群の需要も連動して増加することが期待できる。売上高の通期目標に対する第3四半期進捗率は77.2%（前期実績は72.1%）と例年に比べて順調である。医薬品事業の堅調やインフルエンザ流行拡大などのプラス要因も加味すると、通期業績の上振れも大いに期待できるだろう。

#### 業績の推移

(単位：百万円)

	売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS (円)	配当 (円)
12/3期	6,683	44.7%	515	-	558	-	482	-	37.23	15
13/3期	7,443	11.4%	1,120	117.7%	1,211	116.8%	1,037	115.2%	81.31	15
14/3期	9,947	33.6%	2,590	131.3%	2,683	121.5%	1,747	68.4%	135.94	25
15/3期	8,978	-9.7%	2,559	-1.2%	2,776	3.5%	1,770	1.3%	138.93	25
16/3期	8,327	-7.3%	1,347	-47.3%	1,307	-52.9%	840	-52.6%	65.23	15
17/3期	8,294	-0.4%	1,545	14.7%	1,407	7.7%	1,049	24.9%	76.45	20
18/3期(予)	8,700	4.9%	1,550	0.4%	1,300	-7.6%	900	-14.2%	63.74	25

出所：決算短信よりフィスコ作成

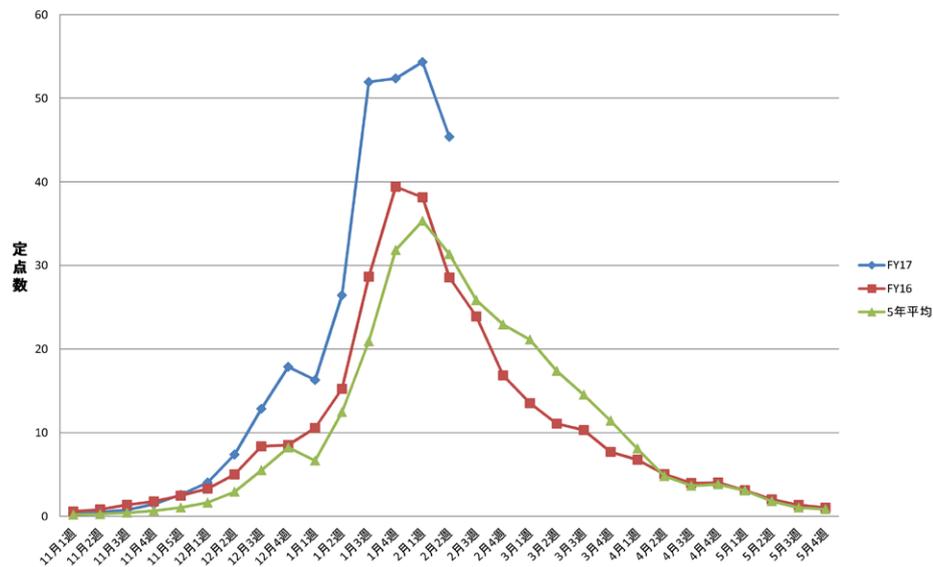
## トピックス

### 例年を大きく超えるインフルエンザの流行拡大

#### 1. インフルエンザの流行拡大

この冬のインフルエンザシーズンは、2017年12月中旬から本格的な流行期に入った。例年(過去5年平均、昨年)よりも早いペースで流行が拡大し、ピーク時期は長くかつピーク時期の患者数は例年に比べて多い。今年の特徴としてはA型とB型が同時に流行し、流行は欧米を含めて世界的に拡大した。同社のクレベリン製品群は、二酸化塩素により空間のウイルスを除去する働きがあるため、インフルエンザの流行拡大は、販売の追い風となる。2018年3月期第3四半期の業績にはその影響はほとんど(12月中旬以降のみ)反映されていないが、第4四半期(1月-3月)の感染管理事業の業績は例年以上の売上高・利益が期待できるだろう。なお、足元好調が推測されるも同社が業績上方修正を行っていないのは、例年、インフルエンザ流行終息による返品リスク、広告宣伝費の追加投資等の可能性があり、第4四半期(1月-3月)はコスト比率が高くなる傾向があるためと想定される。

インフルエンザ 定点比較(11月~5月) ※2018年2月11日



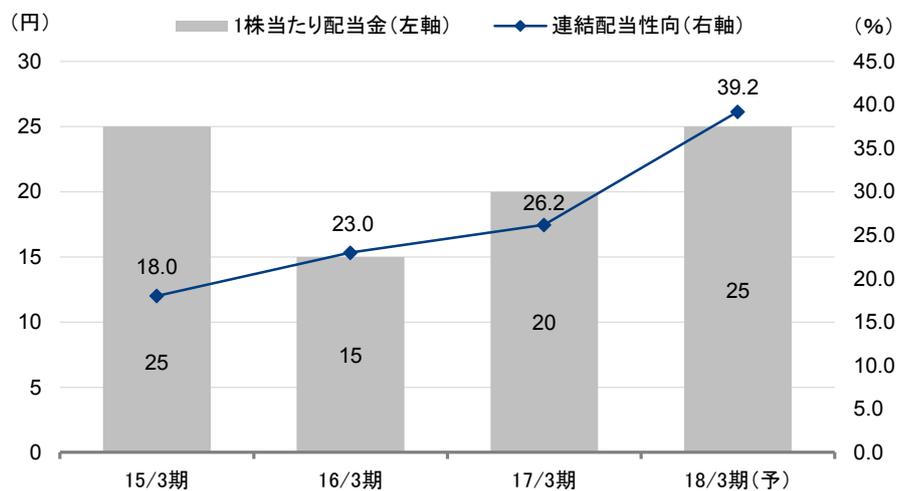
出所：会社資料より掲載

## 配当予想を25円（特別配当10円）に上方修正

### 2. 増配

同社は、堅実な成長を維持する事業展開と安定的な経営体力維持のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持していくことを基本方針とし、連結業績を反映した配当政策としている。期初の配当予想（2017年5月開示）は年15円だったが、第3四半期までの事業の堅調な推移とインフルエンザ流行の拡大などの事業環境が感染管理事業の業績に追い風となることや、内部留保及び配当性向等を総合的に勘案し、特別配当10円を加え、合計で年25円に上方修正した。通期業績に対する自信の表れとして評価したい。

1株当たり配当金と連結配当性向



出所：決算短信よりフィスコ作成

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ